

NEATクアラルンプール総会出席の所感（メモ）

2006年8月31日
東アジア共同体評議会議長
日本国際フォーラム理事長
伊藤 憲一

今次 NEAT クアラルンプール総会に出席した所感を、つぎのとおり報告する。

1. 今次 NEAT 総会の問題意識

さる8月21－23日の3日間にわたりマレーシアのクアラルンプールにおいて NEAT の第4回年次総会が開催された（別添1：「CCM プログラム」および別添2：「NEAT 年次総会プログラム」参照）。NEAT とは、“The Network of East Asian Think-tanks” の略称であり、第1回が2003年に北京で開催されて以来、2004年バンコック、2005年東京の2つの年次総会を経て、今回はその第4回年次総会であった。

NEAT は、「ASEAN プラス3（APT）」首脳会議の決定を受けて、加盟13カ国のシンクタンクのネットワークとして創設され、その「規約(Basic Rules and Framework)」によれば、東アジア地域協力の発展のためにその知的資源を動員し、APT 首脳会議等にその政策を提言するとされている。

各国のシンクタンク（複数）は各国政府によって指定された「国別代表(Country Coordinator=CC)」のシンクタンク（単数）をつうじて NEAT に参加するものとされ、わが国の場合には、「日本国際フォーラム(JFIR)」が CC に指定されているが、JFIR はその後日本国内に日本独自のシンクタンク・ネットワークとして「東アジア共同体評議会(CEAC)」を組織し、実質的には CEAC が NEAT の日本メンバーとして活動している。

今回の NEAT 年次総会は、マレーシア CC であるマレーシア戦略国際問題研究所（マレーシア ISIS）が主催し、APT 諸国からシンクタンク代表者等約70名が参加して、開催された。日本からは、団長の私のほか、吉富勝経済産業研究所長、白石隆政策研究大学院大学副学長、浅見唯弘国際通貨研究所顧問、杉内直敏 JFIR 参与、渡辺繭 CEAC 事務局次長が団員として参加した。全員が CEAC の関係者であることはいうまでもない。

APT 首脳会議が1997年のアジア経済危機とともに発足したことは周知のことであるが、2007年がその10周年に当たるところから、現在の APT の憲章ともいべき「東アジアにおける協力に関する共同声明」（1999年 APT 首脳会議で採択）を2007年の APT 首脳会議で改定し、新しく「第二共同声明」を採択する動きが急浮上しており、関係諸国間の最大の関心事となっている。昨年末 APT とは別に、「東アジア・サミット」が発足したことともあわせ、「東アジア共同体」構想自体の再定義を求める動きともつながっている。本年末フィリピンで開催予定の APT 首脳会議の最大のテーマの一つが、この「第二共同声明」の方向感覚を探るものとなることは間違いない。このような背景のなかで開催された今回の NEAT クアラルンプール総会の最大の問題意識が、NEAT として「第二共同声明」をめぐる政府間の議論にどのようなインプットをするか、にあったことは言うまでもない。

2. NEAT 総会と WG からの報告

ここで、ちょっと説明を要すると思われるのは、NEAT がその年次総会で採択する「政策提言」の採択プロセスである。NEAT の最高意思決定機関は、その規約によれば、総会ではなく、「国別代表会議 (CCM)」であるとされている。CCM は、年度初めに当該年度の主要研究テーマを決定し、各国 CC にテーマ別の「作業部会 (WG)」を分担して、設立することを要請する。2006 年度についていえば、下記の 6 つの WG が設立された。() 内は、WG の設立を引き受けたホスト CC の所属国名である。

- (a) 「東アジアにおける貿易・投資・技術のリンケージ」(日本)
- (b) 「東アジア投資協力」(中国)
- (c) 「東アジア金融協力」(中国)
- (d) 「東アジア域内為替相場の安定と金融危機の回避」(日本)
- (e) 「東アジアにおけるエネルギー安全保障協力」(シンガポール)
- (f) 「東アジア共同体構築の全体構造—非伝統的安全保障と環境協力」(日本)

ホスト CC は WG 運営の全経費を負担し、APT 13 カ国すべてからメンバーを会合に招請しなければならないとされている。より重要なことは、WG の決定がコンセンサス方式だということである。この方式の採用は、総会における議論の時間が限られていることでもあり、その一部を事前に WG で済ませておこうとの配慮によるものであるが、結果的に学術的な議論が政治的な議論に圧倒されかねないとの懸念も表明されている。とはいえ、ホスト CC が指名する WG 主査の影響力はやはり絶大である。

上記の各 WG の報告書は、今次 NEAT 総会の各セッションで下記のとおり報告され、かつ全出席者によって議論された。

- 第 1 セッション：(a) 「東アジアにおける貿易・投資・技術のリンケージ」(日本)
(b) 「東アジア投資協力」(中国)
- 第 2 セッション：(c) 「東アジア金融協力」(中国)
(d) 「東アジア域内為替相場の安定と金融危機の回避」(日本)
- 第 3 セッション：(e) 「東アジアにおけるエネルギー安全保障協力」(シンガポール)
(f) 「東アジア共同体構築の全体構造—非伝統的安全保障と環境協力」
(日本)

3. 東アジア共同体の目標、原理、価値

上記第 1-3 セッションの議論の話は、このあと 4. で紹介することにして、その前に第 4 セッションの話をしておこうと思う。実は、上記 3 セッションの議論は、NEAT が今次年次総会で採択した「政策提言」の各論部分に相当するもので、ほかに総論部分があり、それは NEAT 年次総会の最後のセッションである第 4 セッションで初めて議論されたからである。セッションの順序は前後するが、話の筋としては、やはり各論の話の前に総論の話をしておいたほうがよいと思うからである。

第 4 セッションの議題は「APT 外相会議への NEAT 政策提言の提出」となっており、そのような了解の「NEAT 政策提言」案が CCM を代表してマレーシア CC のジャワハール・ハッサン・

マレーシア ISIS 会長から第4セッションの議場に提出されたわけだが、その内容は各論とともに、総論を述べたものであった。じつは、第4セッションでは、ほとんど議論らしい議論もなく「政策提言」案は採択されたのだが、それには理由があった。なお、この採択された「政策提言」は、本年12月にフィリピンで開催される APT 外相会議に提出されることになっている。

ところで、この「政策提言」案が「第4セッションで初めて議論された」と述べたのは、「総会においては」と付言するのが正確であって、総会と同時進行で、あるいは総会のセッションの間隙をぬって、「政策提言」案のテキストは、総論部分も各論部分ともに CCM（あるいはその委任を受けた起草委員会）において徹底的に議論されていたのであった。そしてその結論であったからこそ、それが総会に提出されたときには、反対らしい反対もなく、満場一致で可決されたのであった。

その意味では、「第1-3セッションの話の前に第4セッションの話をしておこうと思う」と述べたが、実際には「第4セッションの話」ではなく、「CCMの話」をすることになるのである。そしてこの話は、NEATの実態を皆様に報告するうえで、案外きわめて重要な話なのかもしれないと、今の私は思っている。CCMの委任を受けて、その下請け機関である起草委員会が、総会審議をフォローしながら、「政策提言」案の起草作業を進めていたのであるが、解決できない最終問題点をかかえて、この「政策提言」案が CCM に提起されたのは、総会の第3セッションが閉会し、その後の夕食会も終わった8月22日の夜9時過ぎのことであった。翌朝9時半開会の総会第4セッションに承認を求めるとして提出しなければならない予定となっていた。

提出された「政策提言」原案を見て、私が「これは譲歩することはできない」と思ったのは、総論部分のなかにある「東アジア共同体の目指すべき共通の目標、原理、価値」の部分である。昨年の NEAT 東京総会で（それなりの苦労はあったが）満場一致で承認されたはずの「Community building should be on the foundation of universally recognized values. These include among others, good governance, the rule of law, democracy, human rights, international law and norms. East Asian countries should work together to deal with these matters as a common goal of the region.」という文言から、なぜか今年の NEAT クアラルンプール総会は「international law and norms」という文言を削除するのだという。私は、今次総会のオープニング・セッションで前回総会のホストとして挨拶し、普遍的価値の重要性を改めて訴えていた（別添3：「伊藤憲一開会挨拶」参照）。それを完全に否定するような原案であった。

私は「いまずぐ実行は不可能であっても、これは我々の目標だ。我々が昨年約束した『international law and norms』を今年は削除すると言えば、世界はどう受け取るか。賢明になってほしい」と訴えたのだが、まずベトナム代表が「本当は『democracy』も削ってほしかったのを遠慮したのだ」、シンガポール代表が「『rule of law』という言葉があるからいいじゃないか」、マレーシア代表が「いったん決めたことは変えられないということか」、フィリピン代表が「伊藤氏が『rule of law』は国内法の概念だというのはなら、『rule of domestic and international law』とすればよいのでは」など、などと一斉反発を喰らった。しかし、私は、実は「この私の提案が通らないような NEAT なら、そこに留まる価値はない」と腹のなかで決めていた。だから断固としていっさい譲歩しなかった。とうとう議長が「この問題に

については、コンセンサスが得られないということでしょうか」と発言し、それにインドネシア代表が「それはまずい」と反応し、タイが「日本に賛成する」と述べて、一気に流れが変わり、最後は反対ゼロで日本の要求どおり「international law and norms」は「共通の目標、原理、価値」として、昨年同様本年のNEATの「政策提言」にも残ることになった。

それにしても、あの場で、中国代表は一言も発言しなかった。よく自制しているとの印象を持った。あそこで日中の言い合いになっていたら、NEATはもう終わったかもしれない。韓国代表の沈黙も別の意味で考えさせられた。東アジアにおいて、人権とか、民主主義とか、国際法とか、そういう普遍的価値観がまだまだ根付いていないことを痛感させられた場面であった。

4. WG 報告をめぐる議論

第1－3セッションにおいてなされた、WG 報告をめぐる議論の概略はつぎのとおりである。

(1) 「東アジアにおける貿易・投資・技術のリンケージ」(日本)

吉富勝 WG 主査より、「東アジアには、多国籍企業による生産ネットワークができていて、中国は中間財を東アジア諸国から輸入し、製品を米国等世界へ輸出する結果、東南アジア諸国に対しては赤字、米国に対しては黒字の貿易構造となっている。地理的に離れた生産ブロック間のサービス・リンクのコスト切り下げ、技術移転、FTA、二国間投資条約の推進、また、内需拡大と強すぎる輸出志向を抑えるためのポリシー・ミックス、余剰外貨準備の活用などが必要だ」との提言が報告された。これに対して、「中国ではもっぱら組み立てがおこなわれているのであって、生産されているとはいえない」、「中国の対外投資も進んできている」、「外国投資は中国にばかり向いて、他の東アジアに向けられなくなっている」、「外貨準備の扱いは機微な面があるので、議論には中央銀行の専門家の参加も必要」等の意見が述べられた。

(2) 「東アジア投資協力」(中国)

WG 代表者より、「政府、企業、学会による投資協力の共同研究が、東アジアFTAの枠組みの下で、NEATをコーディネーターとして行われるべきであり、独立した『東アジア投資推進センター』の設立を提案する。また、融資チャンネル拡大に向けてインフラや取引基盤、クリーニング・システムを含め、『アジア債券市場』のキャパシティー・ビルディングを強化する必要がある。また、『東アジア投資協力ファンド』の設立を提案する」との報告がなされた。これに対し、「新たな制度作りを提言するには、アイデアだけでなく、もっとしっかりした実質が必要である」、「公的セクターの役割が小さくなり、民間セクターの役割が増大するのが、現在の流れである」、「既存の機関がなし得ることについては、まずその活用が考えられてしかるべし」等の指摘がなされた。

(3) 「東アジア金融協力」作業部会(中国)

WG 代表者より、「東アジア金融協力は緊急性が益々高まっている一方で、良好な環境ができてきている。『東アジア通貨単位』、『為替レート調整メカニズム』、『東アジア通貨基金』等

に関する研究、『アジア債券市場』の発展、『東アジア金融協会』の設立を提言する」との報告が行われた。これに対しては、「問題は新たな制度作りではなく、制度化している諸制約をどう除去するかである」、「既に存在する可能性をもっと活用すべし」との指摘が行われた一方で、「二つのアプローチは、併用されても良い」との議論もあった。「アジア通貨基金」については、「各国の短期的な外貨準備不足を支援するのがその機能であり、外貨準備が過剰になっている現状にそぐわない」との指摘もなされた。

(4) 「東アジア域内為替相場の安定と金融危機の回避」(日本)

浅見唯弘 WG 主査より、「最も重要な長期的目標として、東アジアに安定した『為替レート・メカニズム』を構築することがおおよそのコンセンサスとなっている。『通貨バスケット』の研究、資本勘定自由化と通貨交換性、地域の為替制度に向けてのロードマップ作り、中央銀行総裁の ASEAN+3 蔵相会議への参加、グローバルな不均衡への対処を提言する」との報告がなされた。会場には高度の専門知識を有する金融専門家は不在で、実質的な質問や反対提案はなかった。

(5) 「東アジアにおけるエネルギー安全保障協力」(シンガポール)

WG 代表者より、「東アジア諸国は長期的に世界標準に到達することを見据えたエネルギー効率国家目標を設定し、エネルギー監査やエネルギー効率の実証、エネルギー効率の公教育等の既存の取り組みを拡張すべきである。運輸セクターでの石油消費における省エネルギーに対する取り組みを推進すべきである。また、エネルギー安全保障については、東アジアの先進国は、沿岸開発途上国に対して物質・技術的支援の提供を行い、ReCAAP (Regional Cooperation Agreement on Combating Piracy and Armed Robbery against Ships) に積極的に参加・協力し、マラッカ海峡での多国間演習等を行うことによって信頼醸成のイニシアティブをとるべきである」との報告がなされた。特別の反対論などはなく、おおむねそのまま了承された。

(6) 「東アジア共同体構築の全体構造—非伝統的安全保障と環境協力」(日本)

白石隆 WG 主査より、「①越境犯罪、②テロ、③海運安全保障、④感染症および⑤環境問題の各イシューがある。ASEAN+3 の枠組みがメイン・プロセスとして地域の協力に役立つべきであり、越境犯罪や女性・子供の人身売買、麻薬密輸、マネー・ロンダリングなどの課題に取り組む地域の協力が必要だ。国によって課題に対する認識や優先順位が異なり、宣言・声明に対する能力 (state capability) に違いがある事を認識する必要がある」との報告がなされた。これに対して、「国際的経済犯罪やサイバー犯罪も取り上げて欲しかった」、「これらの問題は継続的にモニターされることが重要である」等の発言があり、後者については白石主査も「次の段階で取り上げられるべき重要な点である」と考える旨述べた。

別添 1 : 「CCM プログラム」

別添 2 : 「NEAT 年次総会プログラム」

別添 3 : 「伊藤憲一開会挨拶」

5TH COUNTRY COORDINATORS MEETING

Le Meridien Hotel, Kuala Lumpur

21 and 23 August 2006

- Programme-

Monday, 21 August 2006

Arrival of International Participants

1200 – 1330 Co-Interim & Host Country Coordinators Meeting (Working Lunch)
Venue: Blue Salon, Level 8, Le Meridien Kuala Lumpur

1400 – 1830 5th Country Coordinators Meeting
Venue: Hang Tuah, Level 6

Co-Chairs:

Dato' Seri Mohamed Jawhar Hassan

NEAT Country Coordinator for Malaysia and

Host Country Coordinator of the 4th NEAT Annual Conference.

Professor Ito Kenichi

NEAT Country Coordinator for Japan and

Host Country Coordinator of the 3rd NEAT Annual Conference.

2000 – 2130 Welcome Dinner
Venue: Grand Salon, Level 8

Hosted by **Dato' Seri Mohamed Jawhar Hassan**

NEAT Country Coordinator for Malaysia and

Host Country Coordinator of the 4th NEAT Annual Conference

Evening Working Meeting on the Draft NEAT Memorandum of Policy Recommendations No. 2, 2006 (Provisional)
Venue: Hang Tuah, Level 6

Wednesday, 23 August 2006

1400 – 1600 5th Country Coordinators Meeting (Continued)
Venue: Hang Tuah, Level 6

Co-Chairs:

Dato' Seri Mohamed Jawhar Hassan

NEAT Country Coordinator for Malaysia and

Outgoing Host Country Coordinator of the 4th NEAT Annual Conference

Incoming Host Country Coordinator for the 5th NEAT Annual Conference

1615 Press Conference
Venue: Sultan II, Level 6

Evening Free

Departure of International Participants

4TH ANNUAL CONFERENCE
NETWORK OF EAST ASIAN THINK-TANKS (NEAT)
Le Meridien Hotel, Kuala Lumpur, 22-23 August 2006

East Asia Cooperation: The Next Ten Years

-PROGRAMME-

Tuesday 22 August 2006

0830 – 0930

REGISTRATION

Venue: Sultan's Ballroom 1, Foyer, Level 6

OPENING SESSION

Venue: Sultan's Ballroom 1, Level 6, Le Meridien Kuala Lumpur

0930 – 0935

Remarks by

Dato' Seri Mohamed Jawhar Hassan

NEAT Country Coordinator for Malaysia

Host Country Coordinator of the 4th NEAT Annual Conference

0935 – 0940

Remarks by

Professor Kenichi Ito

NEAT Country Coordinator for Japan

Host of the 3rd NEAT Annual Conference

0940 – 0945

Remarks by

Associate Professor Yupha Klangsuwan

NEAT Country Coordinator for Thailand

Host of the 2nd NEAT Annual Conference

0945 – 0950

Remarks by

Ambassador Wu Jianmin

NEAT Country Coordinator for China

Host of the 1st NEAT Annual Conference

0950 – 1015

Address by

H.E Datuk Mohd Rastam Isa

Secretary-General

Ministry of Foreign Affairs, Malaysia

1015 – 1030

Refreshments

1030 – 1145

SESSION ONE

WORKING GROUP REPORTS

Chair :

Professor Choong Lyol Lee

Korean University, Korea

(i)

TRADE-FDI TECHNOLOGY LINKAGES IN EAST ASIA

(ii)

EAST ASIAN INVESTMENT COOPERATION

Discussion

1145 – 1300

**SESSION TWO
WORKING GROUP REPORTS**

Chair : **Miss Luan Thuy Duong**
Director, Centre for Southeast Asian Studies, Institute for International
Relations, Vietnam

- (i) ***EAST ASIAN FINANCIAL COOPERATION***
- (ii) ***INTRA-REGIONAL EXCHANGE RATE STABILITY & PREVENTION OF
FINANCIAL CRISIS IN EAST ASIA***

Discussion

1300 – 1430

Lunch
Venue : Al Nafourah Restaurant, Level 8

1430 – 1700

**SESSION THREE
WORKING GROUP REPORTS**

Chair : **Dr Makmur Keliat**
Executive Director, Center for East Asian Cooperation Studies, Indonesia

- (i) ***ENERGY SECURITY COOPERATION IN EAST ASIA***
- (ii) ***OVERALL ARCHITECTURE OF COMMUNITY BUILDING
IN EAST ASIA (REGIONAL ARCHITECTURES FOR NON-TRADITIONAL
SECURITY AND ENVIRONMENT COOPERATION IN EAST ASIA)***

Discussion

1800 – 1930

Welcome Dinner
Venue : Sultan's Ballroom 2, Level 6

Hosted by **Dato' Seri Mohamed Jawhar Hassan**
NEAT Country Coordinator for Malaysia
Host Country Coordinator of the 4th NEAT Annual Conference

Wednesday 23 August 2006

0930 – 1130

**SESSION FOUR
PRESENTATION OF NEAT MEMORANDUM NO. 2 ON POLICY
RECOMMENDATIONS TO THE ASEAN PLUS THREE FOREIGN MINISTERS'
MEETING**

Venue: Sultan's Ballroom 1, Level 6, Le Meridien Kuala Lumpur

Chair : **Dato' Seri Mohamed Jawhar Hassan**
NEAT Country Coordinator for Malaysia
Host Country Coordinator of the 4th NEAT Annual Conference

Discussion

1130 – 1200

CONCLUDING REMARKS
Dato' Seri Mohamed Jawhar Hassan
NEAT Country Coordinator for Malaysia
Host Country Coordinator of the 4th NEAT Annual Conference

1200 – 1330

Lunch
Venue: One On One Restaurant, Level 5

Opening Remarks at the 4th NEAT Annual Conference

held on 22-21 August, 2006 in Kuala Lumpur

by Prof. ITO Kenichi, Host Country Coordinator of the 3rd NEAT Annual Conference

Dear Dato Jawhar Hassan, Amb. Wu Jianmin, Prof. Yupha Kulangswan, and all other distinguished delegates to the NEAT 4th Annual Conference,

It gives me a special pleasure to attend the 4th NEAT Annual Conference held in Kuala Lumpur. The NEAT was born 3 years ago in Beijing and has grown into a common forum for representatives of think tanks from the ASEAN + 3 countries to meet and discuss the concept of an East Asian community building annually. It was in the 2nd NEAT Annual Conference in Bangkok that “The Basic Rules and Frameworks of the NEAT” was formulated. Since then, in accordance with the procedures defined by “The Basic Rules and Frameworks,” the NEAT has been equipped with a set of Working Groups and this has made it possible for the NEAT to produce a memorandum of “Policy Recommendations.” In fact, the 3rd NEAT Annual Conference held in Tokyo last August could put forward a series of “Guiding Principles of Community Building in East Asia” as an introduction to the “Policy Recommendations.”

This was a very productive role in the ASEAN Plus Three process as a whole. In fact the Chairman’s Statement of the 9th ASEAN Plus Three Summit held in Kuala Lumpur last December specifically referred to the “Policy Recommendations” of the 3rd NEAT Annual Conference held in Tokyo last August and requested the Ministers and Senior Officials of the ASEAN Plus Three nations to study those recommendations and proposals. I would like to remind you that the “Guiding Principles of Community Building in East Asia” included, firstly, “peace, prosperity and progress,” secondly, “sharing universal values such as good governance, the rule of law, democracy, human rights, international law and norms,” and finally, “openness, transparency, inclusiveness and comprehensiveness.” On the basis of such achievements as embodied in the series of “Guiding Principles of Community Building in East Asia” put forward by the “Policy Recommendations” of the 3rd NEAT Annual Conference held in Tokyo last August, I hope the 4th NEAT Annual Conference held in Kuala Lumpur could pave a way for a constructive contribution which the NEAT is expected to make to preparing a second Joint Statement on East Asia Cooperation in 2007.

Thank you very much.